

## 会 議 録

会議の名称	第2回千里中央地区活性化ビジョン策定委員会		
開催日時	平成25年(2013年)9月13日(金)14時00分～15時50分		
開催場所	豊中市 千里公民館 3階第1講座室	公開の可否	可
事務局	豊中市都市計画推進部 千里ニュータウン再生推進課	傍聴者数	10人
出席者	委員	加藤(晃)委員、加藤(恵)委員、佐藤(友)委員、澤木委員、 稲月委員、大西委員、菊池委員、澤田委員、山城委員、八本委員、 佐藤(哲)委員、仲委員、松原委員、原田委員、山本委員、 川上委員	
	事務局	半田部長、野村理事、柿本次長、森次長、上野山課長、糸井主幹、 武川課長補佐、後藤主事、内田主事、坪井技術職員	
	その他	牧野、森田	
議題	1. 報告 <ul style="list-style-type: none"> <li>・北大阪広域拠点形成検討連絡会について</li> <li>・地区関係者部会、市民ワークショップについて</li> <li>・補足調査について</li> </ul> 2. 報告 <ul style="list-style-type: none"> <li>・千里中央地区活性化ビジョン骨子(案)について</li> </ul> 3. その他		
審議等の概要 (主な発言要旨)	別紙のとおり		

## 第2回千里中央地区活性化ビジョン策定委員会 議事要旨

日 時：平成25年9月13日（金） 14時00分～15時50分

場 所：コラボ 第1講座室

出席委員：学識経験者：加藤（晃）、加藤（恵）、佐藤（友）、澤木

事業者：稲月、大西、菊池、澤田、山城、八本

交通事業者：佐藤（哲）、仲、松原

市民：原田、山本

行政機関：川上、（欠席：越智、森） （敬称略）

事務局：半田、野村、柿本、上野山、武川

森、糸井、後藤、内田、坪井

その他：牧野、森田

傍 聴 10名

会議録 下記のとおり

### ●開会

会議成立の確認、公開の確認、本日の案件及び資料確認

### ●案件（1）報告1について

【資料1】報告1資料

【資料2】北大阪広域拠点形成検討連絡会関係

【資料3】市民ワークショップレポート

【資料4】補足調査（速報）

資料に基づき事務局から説明

委員長

- ・北大阪広域拠点形成検討連絡会に関する説明にあった「ベルト状の広域拠点整備」というのは、黒の破線で囲まれたエリアのことか。

委員

- ・資料2の補足資料「広域拠点形成に向けた都市機能配置（たたき台）」において破線で囲まれた中にあるのは、今動いているプロジェクトで、連絡会でも、もう少し大きな視野で考えるべきという意見が出ている。連絡会は、機能配置計画をつくるのではなく、連携方策を検討し調整をするという位置付けなので、そのための資料と理解いただきたい。

委員長

・では、この破線は何か。

委員

・大きく動いているところを囲っているだけ。それでは視野も狭く、ポイントもわかりにくいと感じている。逆に、連携のあり方や、こういう視野で物事を考えていくべきというご意見があれば、連絡会の中で議論・調整していきたい。

委員

・市民ワークショップの出席者 23 名の属性がわかれば教えてほしい。

事務局

・男女別では若干男性が多かった。年齢別には、子育て世代が 1～2 割程度で、あとは 60 歳代、70 歳代だった。

委員

・資料 3 において、将来の姿にある「音楽のまち」というのは、どういう背景からでてきたのか。

事務局

・過去には、音楽ホールが 4 カ所あって、活動の場にしてきたが、だんだん減ってきて、最近は気軽に音楽を楽しむ場所がなくなっているという意見があった。過去の経緯をご存じの年齢の高い方々のご意見だった。A 班の意見として資料に出ているが、C 班でも同じような意見が出ていた。

委員

・駐車場の稼働率は、過去からの推移としては下がってきているのか。

事務局

・データは今回調査分のみで、過去のデータは把握していない。

委員

・セルシーの駐車場は満車で入れないということは、稼働率が 100% に近いということか。

事務局

・稼働率はわからないが、2 時間程ビデオを回して観察した結果、渋滞が課題となっているセルシー南側の西向き一方通行の道路で、入庫待ちの車で渋滞が起こっている状況がみられた。

委員長

・駐車場の稼働率については、セルシーの駐車場を含めた全体的なデータは出てくるのか。

事務局

・今回の調査対象以外の駐車場についても事前にデータの開示をお願いしており、若干日付がずれるが、他の駐車場も含めて、素案の時にはお示ししたい。

委員

- ・ワークショップで、「千中ブランドが活かしていない」という意見が出ていたが、どういうところを「千中ブランド」と言っていたのか。

事務局

- ・具体的な発言はなかったが、「千中ブランド」というキーワードを使いながら意見交換が行われていた。これまで、部会や作業部会でもこの言葉が出てきている。地区や地区周辺の豊かな住環境に支えられた高質なライフスタイルをイメージしているのではないか。

委員長

- ・こういうものが「千中ブランド」ではないか、という意見があれば出してほしい。そもそも「千中ブランド」は存在しているのか。

事務局

- ・住んでみたいところとして、豊中駅より千里中央駅の方が評判が良いようだ。一定のブランド価値があると考えている。

委員

- ・ワークショップで、協働ができていないという意見が出てきているが、市民の方から働きかけたというような具体的な話は出てきていないのか。市民ワークショップをもう少し何回かやると、自分たちに何ができるかということが出てくるかもしれない。2時間では時間が足りず、表面的な意見交換に終わっている感じがする。
- ・また、これまでのように車を集めるのではなく、徒歩や自転車・公共交通の利便性を高め、環境にも優しくしていこうという話は出てきていないのか。市民の中から、「自分達はこんなことができるのでは」というような問題意識はあったのか。

事務局

- ・各班8名ずつぐらいで議論していただいたが、2時間では深い議論をするのには十分ではなかった。市民から、市民と事業者の連携が少ないという意見があったが、具体的に何をするという議論まではいかなかった。また、市民と行政で千里中央について話をする場がほとんどなかったので、こういった場をまた設けてほしいという意見をいただいた。

委員

- ・市民と事業者の連携が少ないと感じた。このワークショップには事業者も入っていたのか？

事務局

- ・入っていない。

委員

- ・商業に対する厳しい意見が出ているが、これに対して事業者はどう感じているのか。このままだと言われればなしになる。ワークショップの際に事業者がいたら、やりとりができたかもしれない。千里中央に限らず、どこの商業も同じで、ミスマッチが指摘され、難しいことになっている。
- ・市民との連携・協働という意味では、最近、クラウドファンディング等を使って、地域の商業と地域のコミュニティを結びつけながら、一体的に新しい姿を作っていくという試みも見られる。

阪神電鉄が、ファンド運営会社と連携しながら、地域と一体化するような、小さな試みをすすめている。地域の住民と商業者が一体化し、新しい仕組みづくりを進めていくというようなことが必要ではないか。

#### 委員

- ・市民と事業者の協働に関連して、グランフロント大阪では、時計があるコミュニティスペースがあって、そこが待ち合わせ場所として活用されている。あべのハルカスには市民参加型の地域活動をするスペースが設けられている。ワークショップで出てきた Co-Working スペースなど、事業者の理解でスペースを確保できれば、やがてそれが大きな賑わいに育っていく。千里には、団塊の世代の知識や経験のある人が多く、良心的に活動をしている。ワークショップは主題を絞って行ったわけではないので、1回で終わりにするのではなく、続けて開催すると、ある程度の成果が上がってくるのではないか。

#### 事務局

- ・今後、どういう形になるかわからないが、行政が役割を果たしながら、市民と事業者と行政の間の意見交換や話し合いの場を設けていきたい。

#### 委員長

- ・ワークショップは、テーマ1で良いところ、テーマ2で将来の姿を議論している。このように段階的に進める場合は、スワット分析のように、課題から将来像につながる論理展開やシナリオを明確にすると、ビジョンを考えるときに採用しやすくなる。

#### 委員

- ・交通体系がわかりにくいという意見があったが、具体的にはどのようなことか。

#### 事務局

- ・バスの乗り場が広範囲にわたっているので初めて来られた方にはわかりにくいということだと思う。

### ●案件（2）報告2について

【資料5】報告2資料

【資料6】千里中央地区活性化ビジョン骨子（案）

【資料7】千里中央地区施設配置図

資料に基づき事務局から説明

#### 委員

- ・まちづくりの視点について、3つにうまくまとめているが、経済・産業の視点から考えると、「力強いまちづくり」や「競争力のあるまちづくり」というようなことを入れてほしい。かつての高

度経済成長期を再現するということではなく、北部大阪の地域拠点であるなら、注目され、足を踏み入れようという動機を持てるようなまちづくりが必要。

- ・最近、日本の企業の本社が移転し始めてきている。従来の「都心へ」一辺倒の動きが変わってきており、千里中央地区をそういう経済活動の拠点として位置づけ、発信していくのも一つの方向ではないか。大胆に次世代型の郊外の都心を提案するという観点があってもいいのではないか。

委員長

- ・特に西町エリアをイメージした時に、今のご指摘が直接関係してくる。

委員

- ・大企業でなくても、小さくても面白いもの、例えばロボットなどをやっている人がたくさんいる。住環境がよく、都心とも近いところで仕事を始めてみようという層を誘導すれば、暮らし易さや自然環境の良さが、若い人を引きつける力になるのではないか。職住隣接の環境で生まれる産業を考えてはどうか。
- ・「シンボル空間」とは何か。ここにふさわしい賑わいをどうつくっていくのか。そのイメージがないと、従来型のシンボリックなものや広場ができて終わってしまうのではないか。どういう使い方、使われ方をするのか、この地域にふさわしいシンボル空間は何かということを、市民と一緒に考えてはどうか。公共的なスペースがどんどんまちに開いていくときに、どうやってみんなのものにしていくか。もう少し書きこめるとよい。

委員

- ・中学・高校と千里に住んでいた。当時は、ニュータウンという言葉だけでワクワク感があり、とりわけ千里中央地区は光り輝いているイメージだった。今は、年月が流れて、ニュータウンは緑も生い茂り、シックで少し暗いイメージもある。また、千里中央地区は、施設が老朽化し、時代から取り残されつつある。そういう意味では、まちづくりの視点に「ワクワクするまち」を加えて、あらためてワクワクする要素を考えてみてはどうか。
- ・また、北大阪の拠点ということでは、北の山に開けていくイメージがあっても良いのではないか。これまでのニュータウンは内向きのイメージがある。北摂山系の恵み（自然、農や食）があり、新名神という新しい国土軸ができ、北から人やモノが流れてくる。それらを千里中央地区の活性化の中で受け止めていくことが考えられる。このような期待の広がるイメージ、光とか明るさのイメージを出してはどうか。

委員長

- ・千里ニュータウンでは、次世代の将来像を描くときに、土地がないから地味なものになるといわれてきた。土地がない場合、スカイフロントやジオフロントの方向が技術的には考えられる。住宅地ではスカイフロントには限界があるので、ジオフロントを考えるべきではないか。鉄道の延伸により、北の方に向かって開けるということもある。機能を拡充するために、もっと地下空間を使うべきだ。地上と地下の再編を視野に入れた、次世代のワクワクする都市イメージをシンボルとして考えてもいいのではないか。

#### 委員

- ・全体的には充実した骨子になっているが、最終的にどこまで書きこまれるのかということが気になっている。言葉は盛り込まれているが、具体的に何をどうやってもってくるのか、実現に向けてというところについて、どこまで書き込むのか。関連する事業者、地権者にとっては、ビジョンというきれいな事ではなく、5年後10年後の戦略をどう描いていくかが重要。実際にビジョンに書きこまないとしても、まず何をやらないといけないのか、もう少し具体的なことが、裏ではできているぐらいの作り方をされないといけない。

#### 事務局

- ・少し強弱はあるかもしれないが、具体的な動きにつながるようにしたい。

#### 委員

- ・ビジョンを市民にどう伝えるのか。また、どのように読み込み、使ってもらえるのかという視点を持って、ビジョンを作っていく必要がある。千里中央地区の特徴である歩行者中心の公共的、半公共的空間を活用して、コラボのような活動を展開する等、いろんな時間を過ごしていただく。そういう動きを巻き込んでいく仕組みが必要。権利者・事業者でエリアマネジメント組織を作っていくが、組織と連携するような形で、市民が広場の運営等に関与できるとよい。

#### 委員

- ・駐車場を増やすようなトーンがあるが、これだけ便利が良い場所で、まだ車を増やすのか。公共交通の路線の再編など、うまく使えるようにしていくことが考えられないか。「環境にやさしく」と書いてあるのに、これからのまちを考えるとエコタウンとしてのビジョンがないと魅力的ではない。エコタウンであれば、若い人も入ってくると思う。車がなくても生活でき、すごく魅力的な空間もある。

#### 委員長

- ・交通事業者の方の発言があると良いが。若い人は車離れしているようだが。

#### 事務局

- ・駐車場の稼働率を見ると、駐車場が足りないということはないが、レイアウトによる使いにくさや駐停車が多いことについては、何とか改善したい。同時に、公共交通の結節点としての機能の強化も図る。

#### 委員長

- ・この地区で、車をリスペクトしないのは難しいのではないかな。

#### 委員

- ・人中心のまちにするという基本的な考え方は盛り込むべき。現在、車中心になっているスペースを新たに人中心の場所にして再現するとか、中心部に偏っている駐車場を外縁部に移すなど、千里中央地区の中心部は、人中心のまちにするということは出しておくべき。

#### 委員

- ・「エコタウン」という話がでていたが、これからの地域のイメージとして、新しく提案してはどうか。「多様な魅力」や「千中ブランド」という言葉が出ているが、次世代の都市像を考える上で、新しい都市イメージを提案していくのも一つの方向だ。
- ・「多様な魅力」とあるが、多様とつけると何も言っていないのと同じになる。「リレイテッドバラエティ」、つまり、多様だけ何か1本軸が通っている、あるいは、関連性のあるものでつながっていて、それによって一つのイメージやブランドが作られ、全体として競争力が高まる。そういう視点、考え方もあるのではないか。

#### 委員長

- ・テーマのある多様性については、関東の副都心なり郊外の新都心の事例が参考になるのではないか。

#### 委員

- ・P19の「地下鉄」は、「北大阪急行」に修正すること。

#### 委員

- ・駐車場の件については、先ほどの意見に賛成だが、現実を見ていくと、しばらくは駐車場も千里中央地区の魅力の一つにならざるを得ないのではないか。3年ほど前、イギリスの古いニュータウンの再生の状況を見に行ったが、駅前には全部駐車場になってしまっていて、隣接して大規模商業施設が新たにできて、それで活力を保っていた。北摂の地域特性を考えると、しばらくは、車で動くライフスタイルから抜け切れないと思う。
- ・千里中央地区の駐車場は、パーク&ライドの拠点に使われることになるのではないか。本来のお客さんではないかもしれないが、ここを足場に生活を展開される方がいるかもしれない。たとえば、箕面森町では、周辺の郊外住宅地から箕面森町のセンターまで車で行って、そこでバスに乗り換えて千里中央まで来る、という動きが出てきている。千里中央地区は基盤ができていて、外から見ると強みになっているところがある。万博の複合商業施設ができて、周辺の道路が混雑するので千里中央地区に車をおいて行く、ということもあるかもしれない。いろんな可能性について視野を広げて検討しておいた方がいいのではないか。駐車場が足りないということではなく、もっと使いやすくすれば、周りから人が来るようなこともあるのではないか。

#### 委員長

- ・千里ニュータウンのようなところでは、なかなか車は減らないのではないか。車の開発もどんどん進んで、すごく小さな車も走っている。当面は受け入れる方向で考えてはどうか。

#### ●その他

第3回委員会は11/21(木) 14:00～ 豊中駅近くのエトレ豊中5F ステップホールにて。



以上